



2019年度  
学部学生による自主研究奨励事業  
研究成果報告書



# 遺跡整備・活用の 課題と現状

—遺跡はいかに「まち」に貢献しうるか—



大阪大学文学部考古学研究室  
2019年度学部学生自主研究グループ

2019 年度 学部学生による自主研究奨励事業  
研究成果報告書

# 遺跡整備・活用の課題と現状

—遺跡はいかに「まち」に貢献しうるか—

大阪大学文学部考古学研究室  
2019 年度学部学生自主研究グループ

## 目 次

第1章 本研究の概要と経過	1
1. 本研究の目的	1
2. 研究の方法・計画	1
3. 研究の経過と成果	2
第2章 各遺跡公園の現地調査からみた活用・整備実態	3
1. 調査の方法	3
2. 周辺環境	3
3. イベント実施状況について	5
4. 各遺跡における状況の比較検討	6
5. 考 察	8
第3章 インタビュー調査の実施とパンフレット分析	10
1. 大仙公園周辺でのインタビュー	10
2. 各種パンフレット分析	13
3. パンフレット利用における課題と解決方策	25
4. まとめ	26
第4章 総 括	27

## 例 言

1. 本書は、大阪大学における「令和元年度 学部学生による自主研究奨励事業」に採択された研究課題『遺跡整備・活用の課題と現状—遺跡はいかに「まち」に貢献しうるか—』の成果報告書である。
2. 研究の体制は第1章に記した。
3. 本書の執筆・編集はアドバイザー教員の指導のもと研究グループメンバー全員で行った。各章の執筆者については文末に示した。



図1 全体研究会の風景

# 第1章 本研究の概要と経過

## 1. 本研究の目的

2019年7月6日、百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録され、一般において古墳は以前よりも大きく注目されるようになった。それに伴い、大規模な古墳や遺跡公園が人を集め、その周辺地域の活性化に貢献しつつある。そこで今回の研究では、(1) 遺跡周辺地域の更なる活性化やまちづくりに遺跡や周辺環境がより効果的に活用されること、(2) 広い層の人々に情報発信を行うために何が必要であるかを明らかにすること、の二つを目的とし、遺跡周辺の実地調査を通じた検討を実施した。

本自主研究のメンバー構成は下記の通りである。(所属・学年は研究開始時)

研究代表	本居 佑麻 (文学部人文学科 考古学専修2年)
研究メンバー	往藏 歩里 ( )
	門脇 美空 ( )
	瀧口公太郎 ( )
	中尾 春菜 ( )
	本田 茉鈴 ( )
	森内 靖大 ( )
	安田あゆみ ( )
アドバイザー教員	高橋 照彦 (文学研究科教授)

なお本研究の実施にあたり、文学研究科助教の上田直弥助教をはじめとした大阪大学考古学研究室の方々から助言を賜りました。ここに記して御礼を申し上げます。

## 2. 研究の方法・計画

### (1) 研究の方法

まず著名な遺跡周辺の実地調査によりデータを集め、遺跡(公園)の活用における現状を把握することからはじめた。そこから、遺跡を通じた地域の活性化に重要となりそうな要素を具体的に検討し、それについて現地での聞き取り調査および追加で詳細な現地調査を行った。実地調査では遺跡周辺の施設や宣伝・広告の有無や内容、観光客やボランティア、博物館職員の意見などを実際に見聞きすることで、よりリアルな観点から実態を眺め、考察することを狙いとしている。最後に研究の成果をうけて、今後についての提言を試みた。

### (2) 研究計画

実地調査では、大阪府百舌鳥・古市古墳群、和歌山県岩橋千塚古墳群、奈良県唐古・鍵遺跡、福井県鳥浜貝塚の4つの遺跡を選んで調査に赴き、遺跡の整備状況や周辺環境を調査した。そして全体状況の分析・考察からより深く掘り下げたの検討を行ったが、今回は予算や距離の都合から、百舌鳥・古市古墳群をモデルケースとして取り扱った。本遺跡では、世界遺産に登録されて注目度が上がっている今、周辺環境の整備などもかなりの程度行われている。そうした試みがどのように行われているのか、地元地域の活性化にどのような影響をもたらしているかなどの点において、取り上げる価値が非常に高い遺跡である。最後に調査結果を基に、現状の課題を見つけ、何をすれば解決につながるかを考えていく。改めて整理すると以下の通りである。

#### ①遺跡(百舌鳥・古市古墳群、岩橋千塚古墳群、唐古・鍵遺跡、鳥浜貝塚)の現地調査

→遺跡の整備状況や周辺の環境、施設の調査

## ②現地調査結果の分析

→学術的な興味が比較的薄い層（以下ライト層）を呼び込むことの重要性を確認

## ③遺跡周辺地域の活性化に必要なものの考察

→わかりやすい情報発信などが特に必要であると考察

## ④百舌鳥・古市古墳群での聞き取り調査

→ボランティア、観光客らの意見などを調査

## ⑤聞き取り調査結果からわかる課題の考察

→パンフレット活用方法における問題の検討

## ⑥課題解決に向けての考察

→パンフレットの分析や内容、配置などについて

## 3. 研究の経過と成果

最初に、研究メンバー全員およびアドバイザー教員により、全体集会を実施した。そこで研究目的の確認と具体的な方法を検討し、調査実施計画の策定と役割分担を行った。次に、班ごとに分かれて遺跡の現地調査を実施した。遺跡の周辺環境などを実際に見ることで、インターネット等では見えない部分や、より正確な情報収集を行うことを目的とした、その結果をさらに深く分析すべく、全体ミーティング、各グループミーティングを随時実施した。

そうした基礎調査の結果、遺跡周辺の地域の活性化には、歴史遺物に関する興味がそこまで強くないようなライト層、いわゆる一般観光客をどれだけ取り込めるかが重要であり、そのためにはわかりやすい情報発信や人手、気軽に楽しめる商業コンテンツの充実がカギになるとの予察を得た。そしてその3点について、モデルケースの中で現状をより深く追求することが必要であると考え、百舌鳥古墳群を対象とした聞き取り調査などを行った。聞き取り調査は、実際に観光に来ていた観光客や遺跡説明のボランティアなどの意見をうかがうことで、実際に感じられている不満や課題などを洗い出していく、という方針の下で行った。そこから判明したのは、遺跡や周辺施設に対応するパンフレットの種類、そして冊子内の情報が多すぎたり、これらの設置場所が分かりにくかったりといった問題、すなわち、関連コンテンツの数が単に増えることが全てプラスになるのではなく、その活用の方法に課題が存在することであった。最終的に、こうした活用の具体例として遺跡解説のパンフレットを題材とした提言を行い、そこから全体への課題を考察した。

現地調査の各担当及び実施状況は下記の通りである。

(森内)

## ①現地調査、データ収集

**担当した遺跡** 百舌鳥古墳群 : 往蔵歩里・本田茉鈴・安田あゆみ  
 岩橋千塚古墳群 : 往蔵歩里・本田茉鈴・安田あゆみ  
 唐古・鍵遺跡 : 門脇美空・中尾春菜・本居佑麻  
 鳥浜貝塚 : 門脇美空・瀧口公太郎・森内靖大

**調査実施日** 8月22日 : 百舌鳥古墳群調査  
 8月23日 : 岩橋千塚古墳群調査  
 8月25日 : 唐古・鍵遺跡調査  
 9月20日 : 鳥浜貝塚調査

## ②百舌鳥古墳群周辺での聞き取り調査

**実施日及び担当者**

12月1日 門脇美空・本居佑麻・森内靖大・安田あゆみ  
 12月26日 往蔵歩里・門脇美空・本田茉鈴

## 第2章 各遺跡公園の現地調査からみた活用・整備実態

### 1. 調査の方法

①鳥浜貝塚、②唐古・鍵遺跡、③百舌鳥古墳群、④岩橋千塚古墳群のフィールドワークを実施し、遺跡公園の構造と、整備後におけるメンテナンス状況をチェックした。その際、整備状況、復元状況、解説看板の有無、博物館の有無、ボランティアの解説員・ガイドツアーの有無、案内板の有無、ビュースポットの有無の6つの項目を設定し、検討をおこなった。収集したデータは、項目ごとに以下の表に集約した。なお、百舌鳥古墳群に関しては、仁徳天皇陵古墳と履中天皇陵古墳について調査したものである。

### 2. 周辺環境

①鳥浜貝塚（所在：福井県三方上中郡若狭町鳥浜 122-12-1）

鳥浜貝塚は、鱒川沿いに位置する。最寄り駅からの移動手段は徒歩かレンタサイクルしかなく、歩道も少ないためアクセスは良好ではない。遺跡から博物館までの道も一本道だが、看板は1つしかなく分かりやすいとはいえない状態である。博物館の駐車場は大きいので、車で訪れたほうが便利かもしれない。発掘現場そのものは現在水中にあるため、訪問者は博物館で展示を見るのがメインとなる。情報発信については、博物館のホームページで館の紹介や講演会の案内といった情報を入手することができる。博物館内には土偶や縄文杉のキーホルダーなど、縄文関連のグッズが小規模で展開されている。

②唐古・鍵遺跡（奈良県磯城郡田原本町大字唐古 50-2）

唐古・鍵遺跡は国道沿いに位置し、史跡公園として整備されている。本史跡公園には駐車場が設置されており、

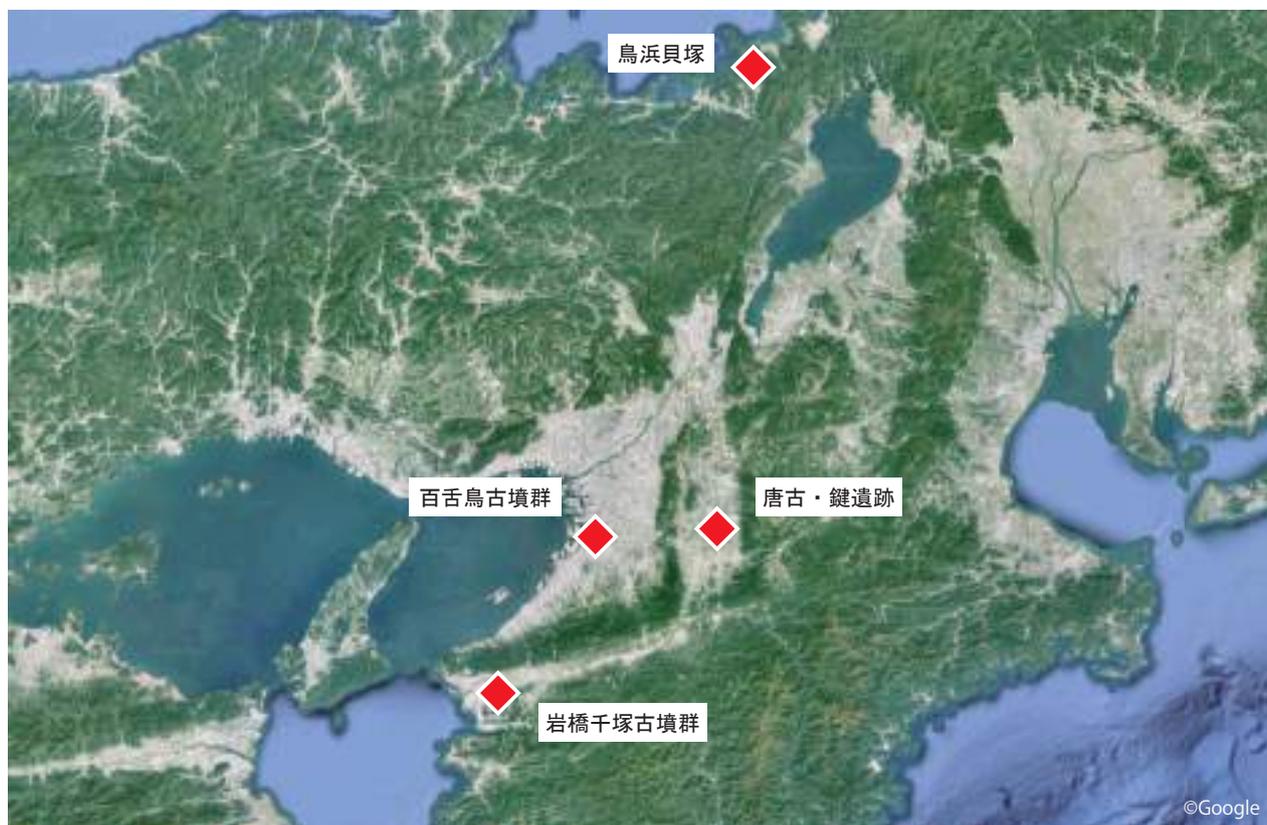


図2 現地調査対象遺跡の地図



図3 福井県 鳥浜貝塚および関連施設

(1：鳥浜貝塚公園、2：縄文ロマンパークの復元住居、3：博物館にて販売されているグッズ)

最寄り駅からは徒歩圏内にあり、交通アクセスは良好である。さらにレンタサイクルの貸し出しも行われている。唐古・鍵考古学ミュージアムは公園から離れた位置にあり、アクセスはよくない。また、公園内には休憩所及びトイレが設置されており、散策に適切な施設がそろっている。様々なイベントが開催されており、観光客だけでなく地元住民にも目を向けた活動を行っている。唐古・鍵史跡公園ホームページでは、遺跡の概要やイベントや情報を入手できる。史跡公園の向かいにある道の駅では復元銅鐸や弥生土器が展示され、遺跡関連の工芸品が販売されている。

#### ③百舌鳥古墳群（大阪府堺市堺区大仙町ほか）

百舌鳥古墳群は住宅街に位置し、古墳群の中心といえる仁徳天皇陵古墳へは近隣に駅があるほか、連絡バスもあり交通アクセスは良好である。古墳をめぐる周遊路の整備に加え、レンタサイクル施設も点在する。大仙公園にはトイレや休憩所が数か所あり、散策に適切な施設がそろっているといえる。広報面では観光サイトが充実しているほか、公園内にある観光案内所には多国語表記を含むパンフレットが設置されている。また古墳をモチーフにした料理を提供する飲食店や、土産物店といったグッズショップが大仙公園から百舌鳥駅周辺に集中的に立地しており、全体として観光に力を入れた環境がつけられている。

#### ④岩橋千塚古墳群（和歌山県和歌山市岩橋 1411）

岩橋千塚古墳群は岩橋山中に分布し、これを保全し公開する施設として紀伊風土記の丘資料館が建てられている。最寄り駅からバスと徒歩でのアクセスで、交通の便はよくないが、バス停から風土記の丘資料館までは道が朱色に舗装されており、訪問者への便宜が図られている。一方古墳群の散策ルートに関しては、道中に休憩所やトイレは数か所設置されているものの、急斜面が多く道も舗装されている箇所とそうでない箇所があり、健脚者向けといえる。情報発信については、紀伊風土記の丘ホームページがあり、館の紹介から学校向けの学習教室の案内といった



図4 奈良県 唐古・鍵遺跡および関連施設

(1：唐古・鍵遺跡史跡公園内の復元楼閣、2：道の駅レストイ唐古・鍵のมาสコットキャラクター

3：史跡公園芝刈り体験のポスター、4：唐古・鍵考古学ミュージアムのフロアマップ、5：唐古・鍵遺跡史跡公園)

情報を入手することができる。資料館には古墳群散策のガイドマップや案内板が設置されている。グッズ販売も行われているが、資料館を含め周辺に遺跡関連のメニューを用意した飲食店はない。

### 3. イベント実施状況について

上記の調査データに加え、以下に各遺跡と関連したイベント・フード情報の例を箇条書きで記載する。

#### ①鳥浜貝塚

- ・年縞博物館内のカフェにて年縞サンド、年縞コーヒーの販売
- ・最寄りの道の駅で水月湖年縞羽二重餅の販売
- ・若狭三方縄文博物館で「縄文ヨガ」の開催

#### ②唐古・鍵遺跡

- ・史跡公園内で芝刈り体験



図5 大阪府 百舌鳥古墳群および関連施設

(1：周辺施設にて販売されているグッズ、2：堺観光ボランティアの案内、3：関連イベントのポスター  
4：仁徳天皇陵古墳の主な見学スポット、5：レンタサイクルの設置状況)

- ・弥生土器コンテスト、弥生わらアートコンテストの開催
- ・「ムラまつり」における竪穴住居制作体験

### ③百舌鳥古墳群

- ・堺市博物館での体験学習
- ・古墳関連のフードを提供する周辺飲食店、グッズを販売するショップ
- ・もず・ふるカード (名刺サイズの遺跡写真入りカード)

### ④岩橋千塚古墳群

- ・HANI-1 選手権 (ハニワ作りのコンテスト)
- ・ジュニア考古学研究発表
- ・夏休みものづくり体験 (ハニワ、勾玉)

なお、遺跡関連のイベントは多様化しており、上記の事例はほんの一部である。

## 4. 各遺跡における状況の比較検討

上記の現地調査及び各遺跡公園・博物館のホームページから読み取れることを以下のように整理した。

まず、「博物館・資料館」、「ボランティア」等が遺跡と地域を繋ぐ第一の要素として挙げられる。前者の「博物館・資料館」の存在により、各遺跡の情報は考古資料を通して一層具体的に市民に提供される。また、館内の資料保存・



図6 和歌山県 岩橋千塚古墳群および関連施設

(1: 遺跡内における復元の様子、2: 紀伊風土記の丘、3: 遺跡見学ルートの状況、4: 館内イベントの様子、5: 関連イベントの告知状況)

研究活動は次世代の教育にも貢献している。後者の「ボランティア」は大半が地元のシニア層で、遺跡や博物館という存在が地元のシニア層のコミュニティを創設しているだけでなく、人々の生きがいとなり得るものも提供している。また、唐古・鍵遺跡の最寄りの道の駅に設置されていた「モバイル・ミュージアム」は、道の駅の訪問者に遺跡の存在を印象づける効果を持っている。

次に、百舌鳥古墳群、特に大仙古墳周辺の飲食店やショップが提供する遺跡関連フード・グッズ等が挙げられる。こうしたものは近年話題になっており、観光客へのPR活動にも功を奏している。世界遺産登録とともに観光客増加を下支えする要因の一つになっているのではなかろうか。イベントに注目すると、②唐古・鍵遺跡の「芝刈り体験」のように地元の人々を対象にしているものに注目したい。④岩橋千塚古墳群の「夏休みものづくり体験」のような夏休みのイベントは、自由研究の一環で小学生の参加が多いものとみられる。こうしたイベントは、「遺跡と地元の人」を繋ぎ、間接的に遺跡の重要性を周知する役割を担っている。(瀧口)

## 5. 考 察

さて、遺跡の整備・活用状況の現地調査及び各遺跡公園・博物館のホームページから読み取れることを検討した結果、「遺跡とまちを繋ぐ要素」として、以下の4つに整理できる。

①**博物館・資料館** 遺跡に関する情報は、博物館・資料館で展示される考古資料を通して一層具体的に市民に提供されている。さらに堺市博物館では、バーチャルリアリティ技術を用いて百舌鳥古墳群を上空から眺めることができる体験コーナーが特設されている。唐古・鍵遺跡の最寄りの道の駅に設置されている「モバイル・ミュージアム」もまた、道の駅の訪問者に遺跡の存在を印象付ける効果を持っていると考えられる。館内で行われる資料保存・研究活動は、次世代の教育にも貢献している。

②**ボランティア** 遺跡公園や博物館では、展示の解説、ガイドツアーなどを行うボランティアが活動している。その大半を占める地元のシニア層はコミュニティを創設し、活動そのものが生きがいや自己実現につながる機会となっている。博物館活動と同様に、こうしたボランティアの存在は、訪問者の学習を支援するだけでなく、地域住民の生涯学習につながっている。

③**フード・グッズ** 調査対象とした遺跡の博物館や道の駅では、遺跡に関連したグッズやフードの販売が行われていた。特に大仙公園から百舌鳥駅周辺、堺山之内商店街の飲食店や土産物店では、古墳や埴輪をモチーフにしたグルメ・スイーツ・グッズが提供されている。これらは観光客へのPRとして、世界遺産登録とともに話題性をもち、観光客増加を下支えする要因の1つになっていると思われる。

④**イベント** 唐古・鍵遺跡の「芝刈り体験」のように、地域住民を対象にしたイベントのほか、集客が期待できるイベントとして、古墳フード・グッズの販売やワークショップなどを盛り込んだ「堺古墳祭り」が2018年から堺山之口商店街や大仙公園で開催されている。また、唐古・鍵遺跡の「勾玉づくり体験」、岩橋千塚古墳群の「夏休みものづくり体験」のように、子供向けの体験学習も多い。このような催し物や体験学習は、地元の遺跡をより身近に感じてもらい、理解を深めることが目的とされており、間接的に遺跡の重要性を周知する役割を担っていると考えられる。

以上のような遺跡を取り巻く要素について検討したところ、次のような分類が可能であると考えた。

まず、遺跡そのものは0次的要素、遺跡関連の考古資料を展示する博物館・資料館を1次的要素とできる。そして、イベント、ガイドツアー、パンフレット、グルメ、グッズなどのように、遺跡への興味・関心を高め、理解を

表1 各遺跡公園の整備・活用実態

	①鳥浜貝塚	②唐古・鍵遺跡	③百舌鳥古墳群	④岩橋千塚古墳群
整備状況	公園あり。 草木の手入れが行き届いていない	公園あり。 草木の手入れが行き届いていない	大仙公園。 立ち入り禁止 (二重柵/鳥居)	草木の手入れが行き届いていない。 墳丘への階段放置。 石室の見学可。
復元状況	竪穴住居	楼閣 大型建物柱跡	なし	埴輪 竪穴住居
解説看板	あり	あり	あり	一部あり
博物館	若狭三方縄文博物館 福井県年縞博物館	唐古・鍵考古学 ミュージアム	堺市博物館 (VR 体験)	紀伊風土記の丘資料館
ボランティア・ガイドツアー	博物館にてボランティアによる解説あり	史跡公園・博物館ともにボランティアによる解説あり	ガイドツアーあり	なし
ビュースポット	なし	なし	あり	なし

深めることを目的とした活動・媒体を2次的要素と捉える。このように分類したとき、2次的要素をきっかけに遺跡を訪問する人々の存在が想定できる。もともと遺跡に強い関心や知識を持って博物館に訪問する層だけでなく、こうした2次的要素を機に遺跡を訪問する層を獲得することで、まちの活性化に貢献することができるのではないかと考えた。つまり、博物館・資料館の来館者や地域住民だけでなく、より広い層の訪問者呼び込むためには、2次的要素の充実が重要であると考えられる。(安田)



図7 遺跡を取り巻く要素

### (1) コア層とライト層

以上、遺跡を取り巻く要素について検討したが、遺跡の訪問者もまたその性格によって2つに分類が可能であると考えた。以下この点について見てみよう。

遺跡の訪問者は、もともと遺跡についての学問的知識をもっていたり、またその修得に強い意欲や関心をもっていたりするような「コア層」、そしてイベント等の2次的要素を機に、観光・娯楽の一環として遺跡を訪問する「ライト層」に分けられると考える。また、ライト層の性格の特徴としてはほかに、専門的でない平易な解説を求め、体験学習等を通じた手軽な学習に興味があるといった点が挙げられる。本研究をおこなうにあたっての動機でも触れた、百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産登録を機に、「一度見に行ってみよう」といった関心の程度で訪問するような人びともライト層であると言える。遺跡のまちへの活用を考える上では、このライト層による訪問を一過性のものにせず、いかにして取り込んでいくかが重要となると思われる。



図8 遺跡公園利用者の二層

### (2) まちの活性

ライト層に着目するのは、遺跡訪問者の数を考えたとき、ライト層はコア層に対して数が多く、加えて、ライト層の取り込みには多くの人びとが関わるのが予想されるからである。多くの人びとが遺跡や、遺跡の所在する町に訪問し、そうした多くの訪問者をもてなすためにもたくさんの地元の人びとが関係することになる。つまり、ライト層を取り込むことは遺跡所在地域の活性化に大きく貢献するのである。

そこで、ライト層へのアプローチとしては、次の3つが求められると考えた。

1. 情報発信：2次的要素を機に訪れるライト層に向けた、その性格を考慮した広報活動
2. マンパワー：イベント開催、ボランティアによる解説の実施のための人員
3. 商業コンテンツ：地元の商店の協力による、遺跡関連のグルメ・グッズ開発、販売

こうした3つの視点からのアプローチには、地域社会とのかかわりが必然的に求められることになる。したがって、ライト層の取り込みは、遺跡の周知や価値の発信だけでなく、訪問者の増加やまちの活性化にも効果的であると考えた。(往藏)

## 第3章 インタビュー調査の実施とパンフレット分析

第2章の考察では、ライト層を意識して取り込むことが、まちの活性化に繋がる可能性を指摘した。次に、ライト層の取り込みに対するアプローチの中で、特に情報発信としてどのような方法がとられているのか、その課題は何か等に注目して検討を行った。ライト層が「ライト層」と呼ばれるのは、かれらの訪問はイベントや観光の一環であり、一過性のものに終わる傾向がみられるからである。遺跡に訪問したライト層に向けて、情報発信装置がよく機能しているかどうかは、2度目、3度目の訪問に繋がるかということに大きく影響している。今回は、我々が訪問した遺跡の中でも広報活動が盛んに行われている百舌鳥古墳群に着目し、インタビュー調査を実施することにした。百舌鳥古墳群における広報活動の実態を明らかにすることで、世界文化遺産登録を機に訪問した多くのライト層の取り込みにいま、何が必要であるのかを調査した。 (往藏)

### 1. 大仙公園周辺でのインタビュー

#### 実施日及び担当者

12月1日(日) 門脇・本居・森内・安田

12月26日(木) 往藏・門脇・本田

既述の通り、百舌鳥古墳群は世界文化遺産に登録されたことで、より一層の注目を集めており、観光客数も増加している。これに伴い、百舌鳥古墳群周辺の様々な場所において解説や案内をするボランティアの方々の姿も目立つようになった。さて、人々は百舌鳥古墳群に関する広報活動にどのような印象を抱いているのであろうか。

12月1日のインタビュー調査では、百舌鳥古墳群近隣の駅や観光案内所において、我々の当初の予想より遙かに多い種類のパンフレットが設置されていることが明らかになった。そこで我々は、パンフレットがライト層への情報発信装置として大きな役割を果たしている可能性、パンフレットが今回の調査・研究の具体的な材料として有用である可能性を考えた。従って、百舌鳥古墳群で特に観光客が訪問する大山古墳周辺にて、観光客の方々や「NPO法人堺観光ボランティア協会」のボランティアの方々に対し、以下のような、パンフレットを中心とした情報発信に関する質問を実施した。

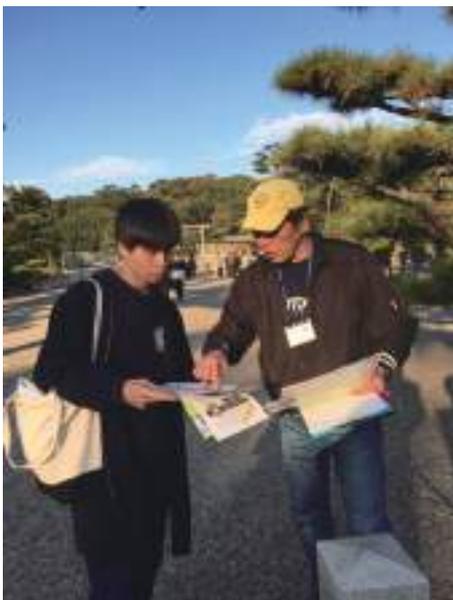


図9 大仙公園周辺でのインタビュー風景

A. 観光客に対しては、(※以下、正確な人数はまだ集計中です。質問は正確ではありません)

- ・ どうやって百舌鳥古墳群の情報を得たか。
- ・ 散策する上で何か参考になっているものはあるか。  
→パンフレットを持っていれば、
- ・ どのようなパンフレットを使っているか。
- ・ 持っているパンフレットで便利・不便な点はないか。
- ・ パンフレットに記載されていればいいなと思うことはあるか。

B. ボランティアに対しては、

- ・ 観光案内をするとき、不便な点はないか。
- ・ パンフレットに記載されていればいいなと思うことはあるか。
- ・ おすすめのパンフレットはあるか。

以上の質問からはパンフレットに関する3つの課題が明らかになった。

- ①パンフレットの種類が多すぎること。
- ②情報過多のパンフレットが存在すること。
- ③パンフレットの設置場所が分かりにくいこと。



図10 各所におけるパンフレット設置状況1

(1：お土産ショップもず庵、2：堺観光コンベンションセンター、3：堺東観光案内所  
4：堺市役所、5：大仙公園観光案内所、6：パンフレット設置状況調査風景)



1



2



3



4



5



6

図 11 各所におけるパンフレット設置状況 2

(1 : J R 百舌鳥駅、2 : 南海堺駅、3 : 堺駅観光案内所、4 : 南海三国ヶ丘駅、5 : J R 三国ヶ丘駅、6 : 南海堺東駅)

パンフレットの種類が多いことで観光客がより豊富な選択肢を得られるものだと我々は予想していたが、それに反し、沢山あり過ぎてどれを使えばよいかわからないという意見が少なからず認められた。そして、情報過多のパンフレットはライト層に避けられる物になってしまうかもしれない。また、パンフレットの設置場所が分かり難く手に取られなければ、折角のパンフレットが真価を十分に発揮できないだろう。

ただし、例えばパンフレットの種類が多いという問題点に関して、各パンフレットを発行する機関が異なることもあり、単にパンフレットの種類を減らすべきだといった提言は適切ではなく、むしろ、各パンフレットの個性に注目すべきと考えられる。その内容やレイアウトが如何なるものであるかを整理することによって、現在のパンフレットを巡る複雑な状況を打破できるのではないかとの見通しから、次に各パンフレットを詳細に分析することによって、パンフレットが持つ情報発信能力の現状を検討した。(本居)

## 2. 各種パンフレット分析

上記のように、パンフレットの活用を考える上で、まずは多種のパンフレットのそれぞれがどのような特徴を持っているかを明らかにすることが必要である。特徴を明らかにすることで、何らかの形でパンフレットを分類し、パ

表2 チェックシートの記入例

パンフレット名：●●●●めぐりマップ			
発行機関：×××××観光協会			
古墳の解説	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		ライト層向けの解説
グルメの紹介	<input type="radio"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無		
グッズの紹介	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		
ルートの設定	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		3つのコース設定あり
デザイン	サイズ	A4	
	綴じ方	観音折り	
	写真	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
	イラスト	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
文字の見やすさ	★★☆		
エリア内の移動手段	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		
アクセス情報	有 <input checked="" type="radio"/> 無		
マップの有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無		<input checked="" type="radio"/> 縮尺 <input type="radio"/> イラストか
道路状況の注記			
凡例			
	トイレ	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
	Wi-Fi	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
	レンタサイクル	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
	駐車場	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
	観光案内所	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
	バス停	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
	交通情報	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
	ビュースポット	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
	周遊ルート	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
設置場所・入手方法：観光案内所にて配布			
備考：			
記入者：△△△△太郎			

パンフレット選択の手助けとなるものを作ることができるのではないだろうか。

調査時に、設置されているパンフレットをできる限り収集したところ、12種類を集めることができた。これらのパンフレットを分析していくにあたり、古墳の解説やルート設定の有無、アクセス情報の記載といったチェック項目をいくつか設け、チェックシートを作成した。マップに関しては、道路状況の注記、凡例もチェック項目とした(表2)。このチェックシートに記入した内容をもとに、パンフレットの特徴をそれぞれ以下のようにまとめた。

**(1) 『Discover 百舌鳥・古市古墳群』(発行：大阪府府民文化部都市魅力創造局魅力づくり推進課)**

＜全体について＞

**グルメ** おススメされているルートやマップに写真付きでそれぞれ2, 3点の記載あり

**グッズ・土産** 記載されているルートごとに載っているわけではなく、不十分。

**道路状況の注記** 道路状況の注記はなく、マップでの大まかな説明のみ。

**ビュースポット等の記載** 観光目的のオススメルートが丁寧に記載されており、どこに行けばいいのかは非常にわかりやすい。

**古墳解説** 知識面の情報は記載がほとんどないが、観光面の記載がそれぞれ2～5行くらいで載っている。

**文字の大きさ** ★☆☆：観光地名はある程度大きいですが、その説明書きが非常に小さく、特にネットから取得できるパンフに至ってはかなり拡大しないと読めない。

**パンフレットの形態** 冊子型。大きくはなく持ち歩くのにはあまり困らない。

**ルート設定** ルート紹介パンフレットのようなもので、目的や興味などに合わせたオススメのルートをいくつか紹介してくれている。周遊路は、マップには名前だけの記載がある程度。

**写真・イラスト** ルートでめぐるスポットごとに少なくとも一つは必ず写真があり、イメージがしやすい。

**設置場所** インターネットでの取得が可能。

**交通手段** 徒歩、レンタサイクル、バスなどルートごとに様々な交通手段を紹介している。

**遠方客向けの案内** 遺跡周辺の駅からのスタートが前提で、



図12 Discover 百舌鳥・古市古墳群

記載はない。

#### <地図について>

**凡例** パンフレット内で紹介されているスポットやその周辺のいくつかのスポットの名称が載っているだけで、トイレなどに関する記載はない。

**地図** Google マップなどとそこまで差はなく、使用に困らない程度には正確。

**備考** Web 版のガイドブックのダウンロード先の QR コードが載っている。百舌鳥エリア、古市エリアで分けて紹介されていて、選択肢が豊富。周遊バスのダイヤが載っていて、観光の計画が立てやすくなっている。

**所見** 古墳中心のルート紹介をしているが、古墳以外にもお寺やグルメ、お土産などの情報が写真付きで多く載っており、幅広い層の観光客が利用しやすいものであると感じた。古墳や施設の説明書きは簡潔で、詳しく知りたい人にとっては物足りないかもしれない。そして文字が小さいため、お年寄りの方などはすこし見辛いかと思える。また交通手段もさまざまなものを想定しており、観光の計画も立てやすくなっている。スマートフォンからのダウンロードも可能なので荷物にもならず便利である。レイアウトも明るめの色使いで全体的に楽しい雰囲気がある。

## (2) 『百舌鳥古墳群ウォーキングマップ』(発行：百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議)

### <全体について>

**グルメ** なし。

**グッズ・土産** なし。

**道路状況の注記** あり(僅少)。

**ビュースポット等の記載** あり。地図上に地点を表記。

**古墳解説** ライト層向けの解説あり。一つの古墳につき1～2行ほど。

**文字の大きさ** ★★☆☆ 見やすいフォント。重要な建物だけを記載。

**パンフレットの形態** 閉じた状態で A4 サイズ。四つ折り。

**ルート設定** あり。健脚コース(たくさんの古墳をまわる)、クイックコース(大山古墳と公園メイン)、撮っておき! コース(ビューポイントを巡る)が地図上に示される。

**写真・イラスト** 豊富。ビューポイントごとに写真と解説。

**設置場所** ネット上に PDF あり。

**交通手段** レンタサイクル(連絡先、利用時間、休館日、駐車場などの利用情報あり)。

**遠方客向けの案内** 文章のみで経路の記載あり。

### <地図について>

**凡例** JR、私鉄線、国道、観光案内所、コンビニ、レンタサイクル、駐車場、トイレ、施設内トイレ、Wi-fi、古墳

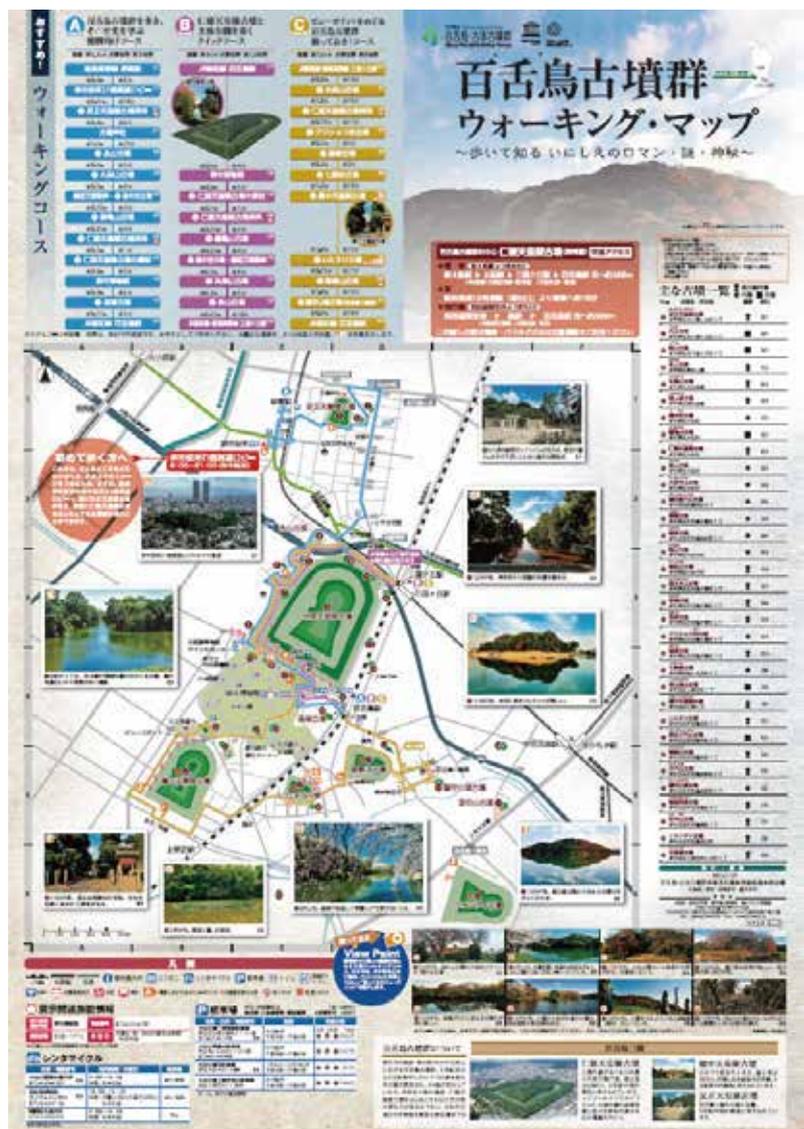


図 13 百舌鳥古墳群ウォーキングマップ

関連展示、寺院、神社、ビューポイント、桜・紅葉スポット。

地図 正確。

備考 堺市博物館の開館時間や連絡先といった情報の記載あり。古墳一覧で古墳の種類を記号で表記。裏面には古市古墳群ウォーキングマップが掲載。

所見 地図は簡潔で、主要な建物や道の名称を示す形をとって比較の見やすい。ビュースポットの写真が掲載され、解説は古墳が紅葉などで美しく見える時期などを中心に書かれていることから、ライト層に向けた解説と考えられる。コース設定がなされているが、昼食をとる場所が考慮されていないなどの問題点も見られる。

(3) 『百舌鳥古墳群自転車周遊マップ』(発行：自転車まちづくり部 自転車企画推進課)

＜全体について＞

グルメ なし。

グッズ・土産 コースに「もず庵」が組み込まれている。

道路状況の注記 なし。

ビュースポット等の記載 南東からみた履中天皇陵古墳。

古墳解説 あり。

文字の大きさ ★★★

パンフレットの形態 A4サイズ・一枚。

ルート設定 あり。

写真・イラスト イラストあり。

設置場所 もず庵。

交通手段 さかいコミュニティサイクル、堺観光レンタサイクル、もずふるレンタサイクルの案内。



図 14 百舌鳥古墳群自転車周遊マップ

遠方客向けの案内 なし。

<地図について>

凡例 観光案内所、レンタサイクル貸出場所、寺社、神社、公園、学校、公衆便所、ホテル。

地図 縮尺あり。

備考 仁徳天皇陵古墳群を起点とした3種類の周遊コース（1時間、2時間、3時間）が設定されている。

所見 百舌鳥古墳群の自転車周遊を紹介した観光マップである。所要時間別に3つのコースがあるが、旧市街地エリアは含まれておらず、グルメやグッズ情報は乏しい。各古墳の解説はライト層向けと思われる。自転車で百舌鳥古墳群をめぐる人向けのマップである。

(4) 『百舌鳥古墳群エリアマップ（表面）』（発行：堺観光コンベンション協会）

<全体について>

グルメ 日本庭園の呈茶。

グッズ・土産 もず庵の紹介（営業時間、場所、グッズの写真）と古墳メモ帳の紹介。

道路状況の注記 「踏切注意」「住宅街の中を進む」「細い道」など文字の注記あり、更にわかりにくいと思われる箇所には写真で案内が添えられている。

ビュースポット等の記載 ビュースポット表記あり、堺市博物館や自転車博物館など観光スポットを地図上で開館時間等情報付きでピックアップ。

古墳解説 古墳一覧表、博物館のVR映像体験の紹介のみ。

文字の大きさ ★☆☆

パンフレットの形態 2つ折り、タテ×ヨコ＝297mm×420mm（A3）。

ルート設定 徒歩で満喫コース（1～2時間）、百舌鳥古墳群をめぐるコース（健脚1日）の提案（行先の提示



図15 百舌鳥古墳群エリアマップ（表面）

のみで道の案内は無し)、周遊路表記あり、周遊路誘導サインあり。

写真・イラスト 道や施設の写像是多いが小さく見づらい。

設置場所 もず庵、観光案内所(堺東駅、大仙公園)、堺観光コンベンション協会、ネット配布なし(マップが似る「百舌鳥古墳群めぐり」はネットで取得可能)。

交通手段 シャトルバス(運行期間、ルート、料金)。

遠方客向けの案内 なし。

<地図について>

凡例 古墳群(番号表示)、JR線、私鉄線、国道、カラー舗装、駐車場、観光案内所、誘導サイン、さかいコミュニティサイクル、観光レンタサイクル、もずふるレンタサイクル、バス停、トイレ、博物館、神社、寺院。

地図 縮尺表示あり。

備考 カラー印刷、主要な地名は日本語の横にローマ字・英語表記がある。



図 16 旧市街地エリア名所・旧跡マップ

(5)『旧市街地エリア名所・旧跡マップ(百舌鳥古墳群エリアマップ裏)』(発行:堺観光コンベンション協会)

<全体について>

グルメ さかい利品の杜の呈茶。

グッズ・土産 地図上に「お土産ショップもず庵」の記載のみ。

道路状況の注記 なし。

ビュースポット等の記載 ビュースポット表記あり、寺院や史跡、展望ロビーなどの観光スポットを写真と情報付きで紹介。

古墳解説 なし。

文字の大きさ ★☆☆

パンフレットの形態 2つ折り、タテ×ヨコ = 297 mm × 420 mm (A3)。

ルート設定 なし。

写真・イラスト 観光スポットの写真が豊富。

設置場所 上に同じ。

交通手段 レンタサイクル(3種類)の料金、貸出場所(さかいコミュニティサイクルについては無し)。

遠方客向けの案内 なし。

<地図について>

凡例 堺ホテル協会加盟ホテル、観光レンタサイクル、さかいコミュニティサイクル、もずふるレンタサイクル、観光案内所。

地図 縮尺表示あり。

備考 カラー印刷、手を切りそうな材質、言語は日本語のみ、もずバス、体験(2500円):バスツアーの紹介あり。

**所見 (表面・裏面)** 百舌鳥古墳群のエリアマップと、百舌鳥古墳群を含む旧市街地エリアの名所・旧跡のマップが載る、地図中心のパンフレットである。地図上には細かく観光スポットの記載や交通注記があり、マップを見ながら自由に散策をしたい観光客向けである。

**(6) 『もずふるレンタサイクル』(発行：堺市・羽曳野市・藤井寺市・松原市・堺観光コンベンション協会)**

＜全体について＞

**グルメ** あり (堺市エリアで10店舗、松原市・藤井寺市・羽曳野市エリアの店舗も掲載)。

**グッズ・土産** なし。

**道路状況の注記** 信号、踏切。

**ビュースポット等の記載** なし。

**古墳解説** なし。

**文字の大きさ** 解説なし。

**パンフレットの形態** A4サイズ・観音折り。

**ルート設定** あり。

**写真・イラスト** 表紙に仁徳天皇陵古墳の写真があるのみ、イラストなし。グルメ情報のページに各店舗一枚ずつ2×3cm程度の写真を掲載。

**設置場所** 大仙公園観光案内所、堺観光コンベンション協会事務所。堺観光ガイドHPにPDFファイルあり。

**交通手段** もずふるレンタサイクルの案内。

**遠方客向けの案内** 百舌鳥から天王寺、大阪梅田、新大阪までの鉄道案内あり (JR線、地下鉄線)。

＜地図について＞

**凡例** 観光案内所、駐車場、レンタサイクル貸出場所、施設内トイレ、トイレ、古墳関連展示、Wi-Fi、神社、寺院、紅葉スポット、桜スポット。

**地図** 縮尺あり。

**備考** 百舌鳥・古市古墳群を電動アシスト自転車で周遊できる「もずふるレンタサイクル」の運用にともない、堺市・羽曳野市・藤井寺市と堺観光コンベンション協会により作成された。大仙公園観光案内所を起点とする周遊ルート (距離/約16.3km、所要時間/約1時間21分) のほか、百舌鳥古墳群と古市古墳群をつなぐ推奨ルートも紹介されている (堺東・大仙～河内松原～野中寺の堺大和高田線ルートで約22.5km、約1時間50分)。

**所見** サイクリングガイドとしてレンタサイクルの案内が充実している。百舌鳥エリアから古市エリアへの自転車による移動も想定されており、推奨ルートには古墳以外の観光スポットも紹介されている。百舌鳥・古市エリア両方のマップがあるが、旧市街地エリアの案内がやや大雑把である。自転車で百舌鳥古墳群と古市古墳群をめぐるたい人向けのマップといえる。古墳についての解説は一切記載されていない。



図17 もずふるレンタサイクル

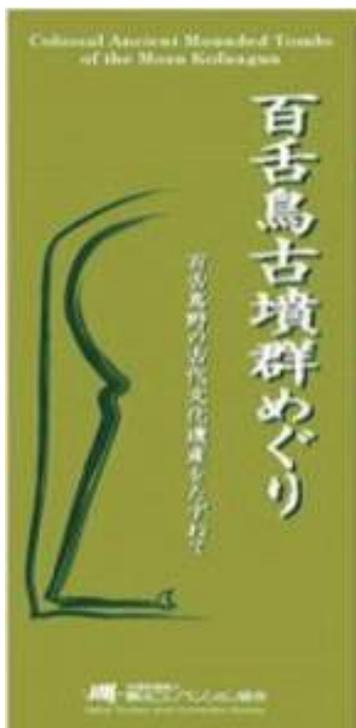


図 18 百舌鳥古墳群めぐり

## (7) 『百舌鳥古墳群めぐり』(発行：堺観光コンベンション協会)

## &lt;全体について&gt;

**グルメ** なし。

**グッズ・土産** もず庵の紹介（営業時間、場所、グッズの写真）と古墳メモ帳の紹介。

**道路状況の注記** 「踏切注意」「住宅街の中を進む」「細い道」など文字の注記あり、更にわかりにくいと思われる箇所には写真で案内が添えられている。

**ビュースポット等の記載** ビュースポット表記あり。

**古墳解説** マップ裏面に主な古墳の写真、解説文（日・英）、堺市博物館内のガイダンスコーナーの紹介、マップ面に古墳一覧表と博物館のVR映像体験の紹介。

**文字の大きさ** ★☆☆

**パンフレットの形態** 5つ折り、タテ×ヨコ＝27×60（cm）。

**ルート設定** 健脚1日コース、半日コースの提案、マップ上にも表記あり、周遊路表記なし（カラー舗装の表記はあり）、ただし周遊路誘導サインはあり。

**写真・イラスト** 古墳の解説で写真が豊富+グッズとVR体験の紹介で少量あり。

**設置場所** ネットで取得可能、堺観光コンベンション協会（生産終了のため設置範囲縮小か）。

**交通手段** レンタサイクル（3種類）の値段、設置場所の紹介。

**遠方客向けの案内** なし。

## &lt;地図について&gt;

**凡例** 古墳めぐりコース、古墳群（番号表示）、JR線、私鉄線、国道、カラー舗装、駐車場、観光案内所、誘導サイン、さかいコミュニティサイクル、観光レンタサイクル、もずふるレンタサイクル、バス停、トイレ、博物館、神社、寺院。

**地図** 縮尺表示あり。

**備考** カラー印刷、主要な文言は日本語の横に英語表記がある。

**所見** 一面には百舌鳥古墳群を含む地図、その裏面には主要な古墳の解説があり、コンパクトで携帯に適していることから、観光客に人気を博しているパンフレットのの一つである。古墳の解説が載っているため、知識を得たいというニーズには対応するが、専門用語が多く内容はコア層向きである。

## (8) 『世界遺産 百舌鳥・古市古墳群—古代日本の墳墓群—』(発行：百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産登録推進本部会議)

## &lt;全体について&gt;

**グルメ** なし。

**グッズ・土産** なし。

**道路状況の注記** なし。

**ビュースポット等の記載** なし。

**古墳解説** 古墳とは何かについての解説。

**文字の大きさ** ★★☆☆ 地図上の文字が小さく、線が細い。

**パンフレットの形態** A4、観音折り。

**ルート設定** なし。

**写真・イラスト** 豊富。視覚的に情報が得られるイラスト。

**設置場所** もず庵に紙媒体あり。ネット上にPDFなし。

**交通手段** なし。

**遠方客向けの案内** あり。簡略でわかりやすい図。

**備考** 多言語版リーフレットとなっており、英・中・韓国語版がそれぞれ発行されている。

**所見** 百舌鳥古墳群が世界遺産に登録されたのちに発行されたパンフレットであり、百舌鳥・古市古墳群の特徴が、大きめの図版を用いて知識のない人にもわかりやすいように解説されている。また、4ヶ国語で発行されていることから、海外の観光客に百舌鳥古墳群を理解してもらうことにも有用であると考えられる。

### (9) 『プラタモリ 堺ロケ地巡りガイド BURA SAKAI MAP』(発行：堺フィルムオフィス)

<全体について>

**グルメ** なし。

**グッズ・土産** なし。

**道路状況の注記** なし。

**ビュースポット等の記載** 番組『プラタモリ』で訪問した場所の記載あり。

**古墳解説** 比較的詳しい。

**文字の大きさ** ★★★

**パンフレットの形態** 開くタイプで冊子ではない。

**ルート設定** 『プラタモリ』で巡った実際のルートの記載あり。

**写真・イラスト** サイズの小さい写真が幾つか配置されている。

**設置場所** 堺市内観光案内所(堺駅、堺東、大仙公園)堺市博物館、さかい利昌の杜、堺コンベンション協会、堺市役所本館3階市政情報センター、堺市役所高層館21階展望ロビー、各区役所市政情報センター、JR阪和線百舌鳥駅等(HPより…配布開始日7月17日、いずれも無くなり次第終了)。

**交通手段** シャトルバス、タクシー、レンタサイクル。

**遠方客向けの案内** 鉄道路線図の記載あり。

**備考** 『BURA SAKAI MAP』は2019年5月25日に放送されたNHKのテレビ番組「プラタモリ」において百舌鳥古墳群が特集されたことを契機に制作されたパンフレットである。本パンフレットの特徴として、本番組特有の「地理」から謎を解き明かしていくスタイルが同様に行われていることが挙げられる。また、番組ナビゲーターとして番組出演者に同行した堺市博物館の学芸員が易しい解説をしている。

**所見** 古墳等の解説は柔らかい口調で記述されており

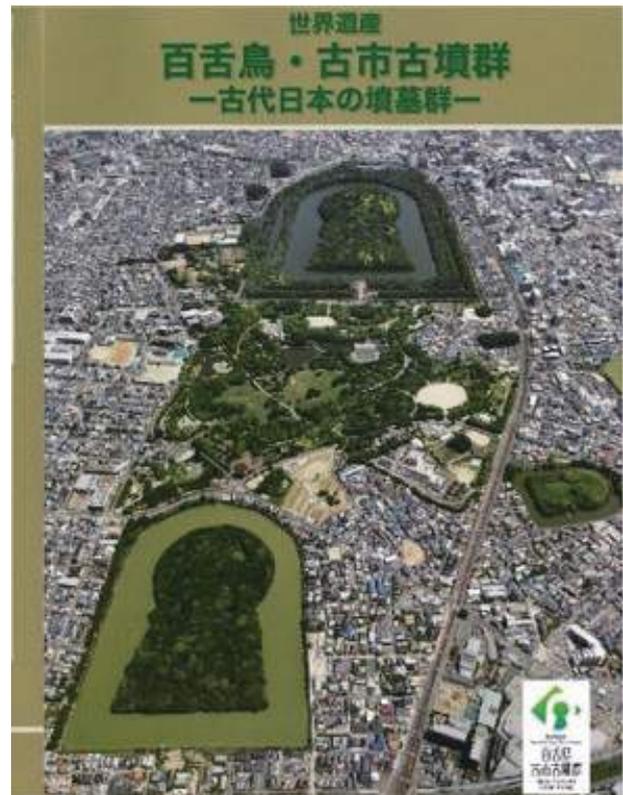


図19 世界遺産 百舌鳥・古市古墳群  
—古代日本の墳墓群—

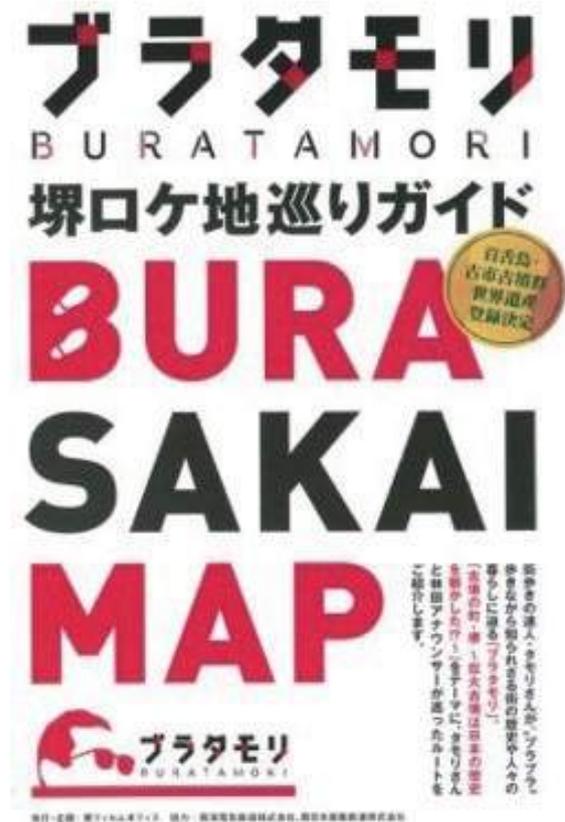


図20 プラタモリ 堺ロケ地巡りガイド  
BURA SAKAI MAP

コア層志向ではないと言えるが、地図が非常にシンプルなので、本パンフレットだけでは観光し難いと言える。しかし、本放送を見ていない人も、本パンフレットの解説や上記学芸員による「NAVIGATOR VOICE」欄を読むことで番組の進行風景を追体験することが出来るだろう。

### (10) 『大仙公園エリアマップ』(発行：堺観光コンベンション協会)

#### <全体について>

グルメ あり。

グッズ・土産 あり。

道路状況の注記 なし。

ビュースポット等の記載 あり。

古墳解説 ライト層向けの簡単な説明あり。

文字の大きさ ☆☆☆ 解説の字が非常に細かい。

パンフレットの形態 1枚の紙、B5。

ルート設定 なし。

写真・イラスト イラスト・写真が1つの項目ごとに配置。

設置場所 観光案内所で紙媒体・HPでPDF配信。

交通手段 レンタサイクル・バス。

遠方客向けの案内 なし。

#### <地図について>

凡例 トイレ、多目的トイレ、AED設置所、駐車場、Wi-Fi、踏切遮断器、授乳室、休憩所、グルメスポット、バス停。

地図 大仙公園を中心に描いた地図、仁徳天皇陵古墳と履中天皇陵古墳の形が分かる。



図 21 大仙公園エリアマップ

**備考** ボランティアの方によれば、以前はより大きなサイズのバージョンがあったものの、その配布は終了してしまっただけという。

**所見** 多くの観光客は仁徳天皇陵古墳、堺市博物館といった大仙公園周辺で完結する。そういう方は、情報量が多く、文字の大きさを除けば見やすい本パンフレット「大仙公園エリアマップ」を用いれば快適に観光を楽しむのではないかと考えられる。本パンフレットは魅力が多いだけに配布の終了した大きいサイズの再発行が切に願われる。

### (11)『古墳のある街 堺市』（発行：堺観光コンベンション協会）

#### <全体について>

**グルメ** 百舌鳥古墳群周辺のグルメと堺市全体のグルメの記載あり。

**グッズ・土産** あり（古墳関連1件、他9件）。

**道路状況の注記** 信号や道の細さについての記述なし。

**ビュースポット等の記載** あり。

**古墳解説** 古墳の大きさ・年代・被葬者・特徴・見どころの記述あり。

**文字の大きさ** ★★★

**パンフレットの形態** 中綴じホッチキス製本、縦255mm 横208mm。

**ルート設定** サイクリングコースと徒歩コースのルート設定あり、周遊路の表記あり。

**写真・イラスト** 地図のページ以外の全ページに写真あり、イラストも豊富。

**設置場所** 堺市内各所（観光案内所、一部宿泊施設など）、ネット上での取得不可。

**交通手段** レンタサイクル・シャトルバス・タクシーの記載あり。

**遠方客向けの案内** 車と電車の関西空港・新大阪・大阪市内からのアクセスの案内あり。

#### <地図について>

**凡例** Wi-Fi スポットとトイレの表記あり。

**地図** 縮尺が一定でない。

**備考** Google マップや古墳巡りに役立つアプリに繋がるQRコードが載っている。

**所見** ライト層向けのパンフレットである。古墳の大まかな解説、古墳巡りのコース、堺市の観光スポット、堺市のグルメ紹介などが記載されており、古墳巡りだけでなく、堺市の観光もする人に適している。文字は見やすく、カラフルで、写真やイラストも豊富であるため、読みにくさを感じることはないだろう。しかし、地図の縮尺が正確ではないので、実際に行くときは別の地図を参考にした方がいいだろう。



図 22 古墳のある街 堺市

## (12) 『sakai たび図鑑』(発行：南海電鉄)

<全体について>

**グルメ** 堺のものなら紹介されているが、古墳関連のものではない。

**グッズ・土産** なし。

**道路状況の注記** なし。

**ビュースポット等の記載** 履中天皇陵のビュースポット記載。

**古墳解説** 古墳の大きさなどの説明あり、古墳のカタチの紹介もあり。堺市博物館学芸員のコメントもあり。

**文字の大きさ** ★★★

**パンフレットの形態** 中綴じホッチキス製本、A4。

**ルート設定** なし。

**写真・イラスト** 紹介されている古墳には1枚以上の写真あり、イラストも豊富。

**設置場所** 堺東駅・三国ヶ丘駅・新今宮駅、ネット上で取得不可。

**交通手段** 世界遺産・仁徳天皇陵古墳シャトルバス。

**遠方客向けの案内** 簡単な路線図のみ、所要時間は記載なし。

**備考** 英語・中国語・韓国語・フランス語版もある。カラー印刷である。他にも、無料アプリ「百舌鳥古墳群周遊ナビ」、堺市博物館「仁徳天皇陵古墳VRツアー」、MOZU-FURU CARD、堺観光ボランティア協会の「百舌鳥古墳群めぐりツアー」の紹介がなされている。

**所見** このパンフレットには一般にはマイナーである古墳についても学芸員の見どころ解説が載っている。前方後円墳、方墳、円墳、帆立貝形墳という風に様々な形の古墳を紹介しているため、色々な形の古墳をみたい人にはおすすめであるといえる。古墳の説明自体は比較的初心者向けであると思われる。地図はついていないため、マップとしては使えないが、堺駅周辺の観光の一環として百舌鳥古墳群を訪れる人には適したマップであるだろう。

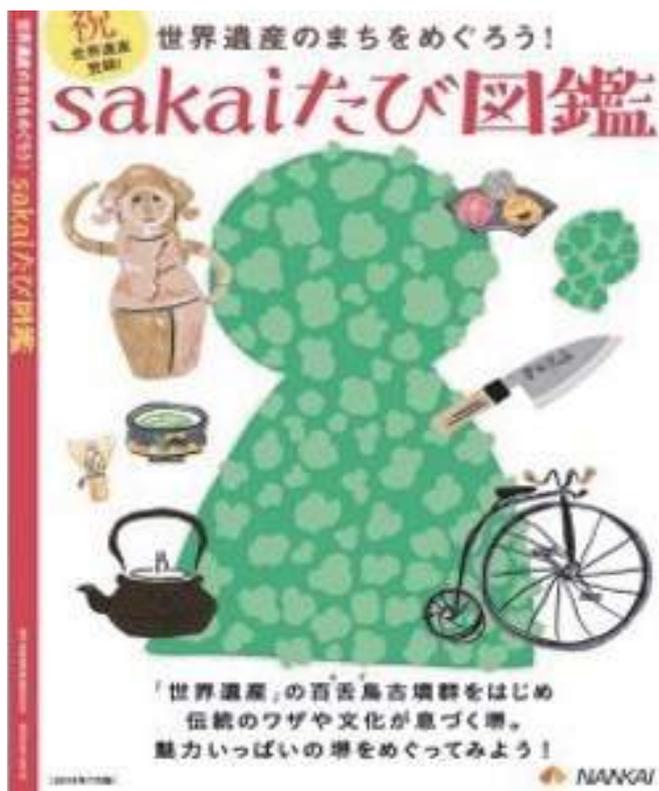


図 23 sakai たび図鑑

## (13) 『堺観光ガイドブック』(発行：堺観光コンベンション協会)

<全体について>

**グルメ** あり(伸庵・黄梅庵の抹茶、茶寮つば市製茶本舗の煎茶、GORYO ラテ、芥子餅、肉桂餅、くるみ餅)。

**グッズ・土産** あり(注染、刃物、線香)。

**道路状況の注記** なし。

**ビュースポット等の記載** あり。

**古墳解説** 仁徳天皇陵のみ。

**文字の大きさ** ★☆☆

**パンフレットの形態** A4二つ折り。

**ルート設定** 周遊路表記あり。

**写真・イラスト** 豊富。

**設置場所** 各観光案内所、堺市役所、堺観光コンベンション協会、もず庵等、ネット上にPDFあり。

**交通手段** レンタサイクル、バス、タクシー。

遠方客向けの案内 なし。

<地図について>

**凡例** 観光案内所、観光レンタサイクル、さかいコミュニティサイクルレンタサイクルポート、もずふるレンタサイクル、Wi-Fi。

**地図** 主要な道路のみの表記、古墳の表記は多い。

**備考** 日本語版とは別に外国人観光客向け（英語、中国語、韓国語）のものあり。

**所見** 堺市全体の観光に適したパンフレットであり百舌鳥古墳群の扱いはそれほど多くはない。百舌鳥古墳群の地図は簡単なものではあるが、仁徳天皇陵古墳以外にも大小さまざまな古墳の位置と大体の大きさなどが分かるようになっており、多くの古墳を巡る際には参考になるだろう。

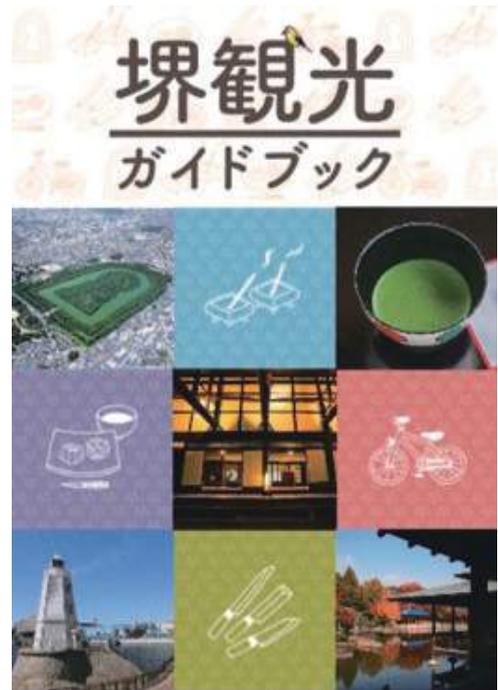


図 24 堺観光ガイドブック

### 3. パンフレット利用における課題と解決方策

パンフレットを個別に分析した結果、大きくマップ中心のもの、知識中心のもの、観光中心のもの、という三つの系統に分けられることがわかった。パンフレットを利用する際には、多様化したパンフレットの中から、これらの性格を踏まえて自らの目的に合わせて選択しなければならない。しかし現状、パンフレットは一括して書棚に並べられているだけで、すべてを手にとらないと、自身の目的に合ったマップを選ぶことが難しい状況である。実際としては、駅などを訪れた観光客は、手に取りやすいものを1種類だけ持ち去る、ということがほとんどであると考えられる。

本来であれば、パンフレットの設置場所自体に大きな工夫を加えることが望ましいが、スペースの問題などからそうしたことは難しいと考えられる。

そこで今回、現状に沿った問題解決策の一例として、パンフレットの選択がスムーズになるように、上記のパンフレットでフローチャートを作成し、目的別のパンフレットを紹介するようなツールを作成した（図26）。

チャートでははじめに、利用者が古墳についての情報をどの程度求めているかを知るために、古墳に対する興味

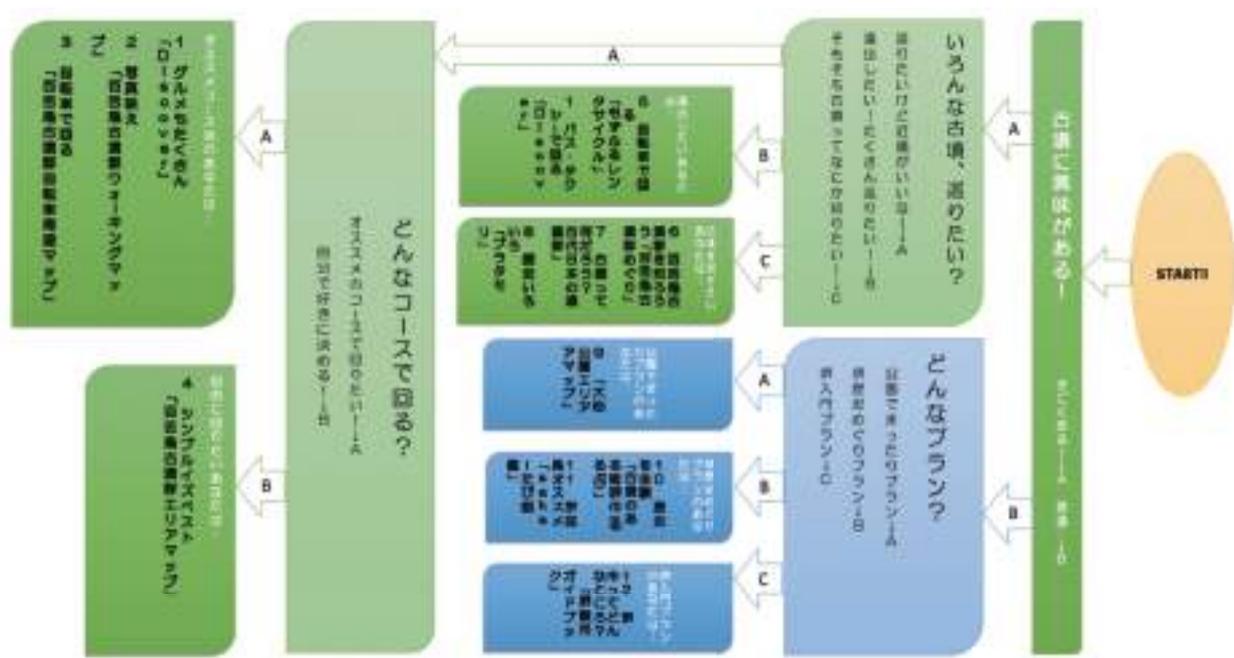


図 25 パンフレット フローチャート

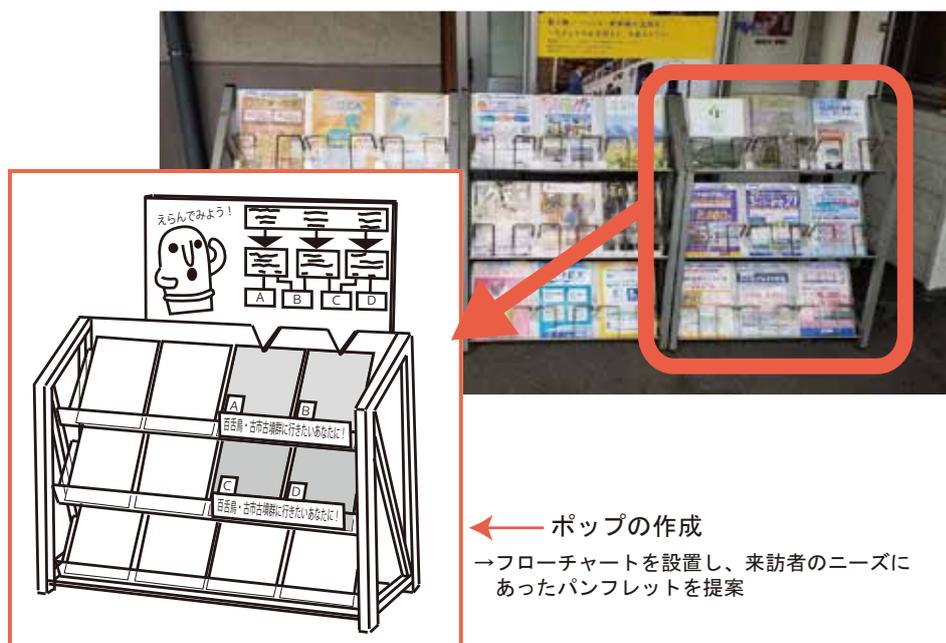


図 26 パンフレット設置場所への工夫の例

← ポップの作成  
→フローチャートを設置し、来訪者のニーズにあったパンフレットを提案

の程度を質問している。次に、希望プランはどのようなものであるかを尋ねることで、観光範囲、コース設定の有無、訪問スポットの種類で分けられ、その利用者におすすめのパンフレットを導き出すことができる。このチャートを利用することで、多様なパンフレットの中から自分に適したパンフレットを探すことが容易になると考えられる。(中尾)

また他の問題点として、パンフレット活用

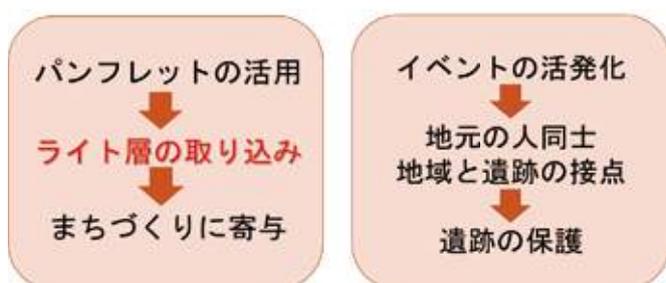


図 27 ライト層取り込みによる効果

における問題点として、設置場所が分かりにくいことが挙げられる。上の写真は百舌鳥駅のホームにあるパンフレットのラックだが、多種類のパンフレットが並んでいて、百舌鳥古墳群のパンフレットがどこにあるのか分かりにくい。この問題の解決策として最も有効なのは、「ポップ」をつけることであると考えた。(本田)

#### 4. まとめ

本章では、インタビュー調査の結果から、パンフレットに関連した3つの問題点が存在することを明らかにした。そして多様なパンフレットが上手く活用されていない実態を踏まえ、有効に活用するにはどうすれば良いかを、パンフレット分析や設置場所の調査から考察した。その結果、フローチャートの作成やポップの作成など、利用者の目的に合致するパンフレットを容易に探すことのできる工夫が必要であることがわかった。

百舌鳥古墳群においては、パンフレットのような媒体をより活用することで、さらにライト層を取り込むことができると考えられる。そしてこうしたライト層の取り込みは、先述のように、まちづくりに大きく寄与すると予想される。

また、このことは百舌鳥古墳群だけでなく、全ての遺跡とまちの関係についても当てはまると考える。例えば、パンフレットの効果的な活用が進めば、目的に合った集客をスムーズにおこなうことが可能となり、これまでは遺跡に対してあまり興味を持たず、訪れていなかったような層も、新たにライト層として取り込める可能性もある。ライト層としての訪問を入りに、よりコアな層へと変化することもあるだろう。さらに、地元の町をあげてのイベントなどが活発になれば、地元の人同士、地域コミュニティと遺跡との接点も増え、それが遺跡の恒久的な保護へと繋がると期待できる。(中尾)

## 第4章 総括

ここまで遺跡を通じたまちづくりの問題を出発点として、より具体的な情報発信における課題、特にパンフレットの活用における課題とその解決への展望についてみてきた。今一度これまでの研究成果についてまとめてみよう。

まず、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に際して、増加する観光客に向けた情報発信の重要性和、遺跡と地元の地域を結び付けたまちづくりの必要性を認識した。そこで、近畿圏を中心として

各時代の代表的な遺跡について実地調査を行い、情報発信などについて調査・分析した。そうした調査の結果、遺跡を取り巻く要素は0次的、1次的、2次的という3要素に、遺跡の訪問者を「コア層」と「ライト層」に分類できると考えた。メディア等での取り上げに比例したライト層の増加をうけ、こうした層の取り込みのための、地域の人々の関与が、まちの活性化につながると考えた。そして、ライト層へのアプローチには情報発信、人手、商業コンテンツの3つが求められる。そこで今回はそのうちの一つの情報発信に着目し、現状把握のために大仙古墳周辺のボランティアにインタビューを行った。その結果具体的課題の一つとしてパンフレットは多数発行されているものの、その活用にはまだ大きな余地があることが分かった。そこでより具体的な問題点と解決策を明らかにするために、百舌鳥古墳群に関するパンフレットを収集・分析し、パンフレットの性質によって3つの系統に分類した。最後に、その分類をもとに、現在の設置状況に沿う方策として、利用者のニーズ別のチャートを作成するなど、パンフレットの活用方法を提案した。

これからの遺跡のまちへの活用を考える上では、まちの活性化へとつながるライト層の取り込みに関わる情報発信機能の向上が鍵となる。そのための方策の一例として今回は百舌鳥古墳群のパンフレットを用いて、その利用ガイドの作成を試みた。まちと遺跡とのつながりを保つことは遺跡の恒久的な保護においてきわめて大切である。ただ観光の道具としてだけでなく、活用を通して地元の人がある遺跡を守るという方向に向かえば、双方に利益もたらされるだろう。

本研究を通して、遺跡に関する情報発信の重要性がより鮮明になったように思われる。とりわけ、百舌鳥・古市古墳群では世界遺産登録に際して、数多くの情報発信がなされている。そのような動きが一過性のものとならず、持続的なものとなるには、まだまだ工夫できることがあることが明らかにできたと思う。 (門脇)

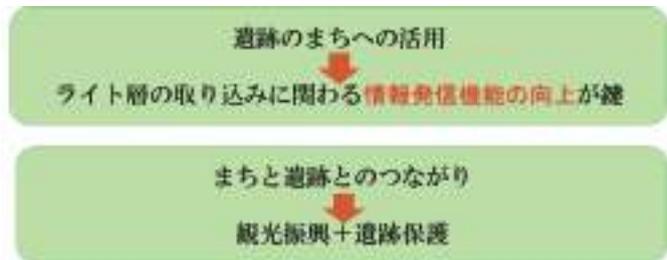


図28 遺跡とまちの関係模式図

---

令和元年度「学部学生による自主研究奨励事業」  
遺跡整備・活用の課題と現状—遺跡はいかに「まち」に貢献しうるか—  
研究成果報告書  
令和2年10月  
編集・発行 大阪大学大学院文学研究科考古学研究室  
2018年度学部学生自主研究グループ  
〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5

---

